

# YAMAKADO NEWSLETTER

NO.95

2007/10/20

山門水源の森を次の  
世代に引き継ぐ会

## 念願の動物画像撮影叶う!!!!



PHOTO BY ITO



イノシシ(07/10/11)

ノウサギ(07/10/07)



シカ(07/09/02)



ムラサキシジミ(07/10/17)

野生動物の撮影は偶然を待つより方法がないのが現実である。日頃「山門水源の森」で見かけることはしばしばであるが、いざ撮影となるとなかなかチャンスが無いものである。ここに取り上げたイノシシなどは、森の各所にほぼ年中ヌタ場や掘り起こし跡が見られる代表格である。が過去 20 年間で目撃したのは 1 回のみであった。が今年 4 月から、伊藤会員が自動撮影の固定カメラをセットし、何度も調整を繰り返し、加えて 4 回も撮影場所を変えやっと今回撮影できた貴重な画像である。同様にノウサギも冬の雪面にはごく普通に足跡が見られるが、実物を目視したのは数回しかない。今回四季の森で草刈中に飛び出した個体を追跡しやっと撮影したもの。シカは、過去何回か撮影できているが、今回は立派な角を持った雄が撮影できた。

ムラサキシジミも今回初めて、湿原へのパトロール中に見かけたものである。いずれにしても撮りたいと思いつつもなかなかそのチャンスに恵まれないのだが、文字通り数打ちや当たるということである。ようは釣り人の心境になり釣果を焦らず通うことのみが成果を得る秘訣のようである。

数年前から課題にしていた白花タニウツギとコアジサイを付属湿地の周りに植栽するため挿し芽をし発根状態を見ると右のようになり果実ポットに植え替えを行った。現在付属湿地の周りに植栽されている園芸種のアジサイと植え替えを考えてのことである。タニウツギは既に付属湿地の周りには沢山自然生えがあり、年々未生が沢山発生するが、タニウツギの白花は齋苑近くの切り通しに一株見られるのみで、この株から枝を採取して挿し芽穂としたものである。数年後には、紅白のタニウツギが付属湿地の周囲を彩ることになります。



タニウツギ(白花)



コアジサイ





ミネラル補給所(07/10/10)



ミネラル補給所(07/10/14)

昨年「四季の森」の下草刈りを実施中に見つけたミネラル補給所は、その後来訪者には動物がミネラル補給をこのような土壌から行っているということで大いに感心をもたれ、かなり案内を行った。草刈以前は、周囲が背高いササで被われていたため動物は警戒心なくかなりの頻度で訪れていた。がササ刈りによって見通しが良くなったことと、来訪者の増加に伴い今春からは利用せず、別の場所(少し上流側)に新たな補給所を開拓していた。が 10 月になって利用を始めた。上の画像からも明らかなように日ごとに利用量が増加している。削り取られてフラットになった部分は、ヌタ場としても利用している。



ツチアケビ(07/10/14)



オオゴムタケ(07/10/14)

てしまい、現在は壊れています。

湿原内部もシカ・イノシシ・カモシカが頻繁に出入りし各所に寝床があります。所によってはヌタ場化しています。このヌタ場はその後右の画像のようなミミカキグサの大群落を形成し乾燥化が進行します。



ジュンサイの果実(07/10/16)

ジュンサイの増加が目立つようになり来年の増加が気になるところです。勿論水田雑草の増加が大問題です。拡大し始めているオオミズゴケを被うこととなり、その拡大が阻害されるため何回か除草を繰り返していますが根絶は望めそうにもありません。

昨年は南部湿原東側で何本ものツチアケビが発生しましたが、今年は「四季の森」のコース沿いに 1 本発生し果実も付けましたが風で倒れ干からびています。が最近になって「四季の森」で新しい場所が見つかりました。さらにほぼ同じ場所で昨年見つけたオオゴムタケの横に新たなオオゴムタケの発生も確認されました。残念ながらシカが踏み荒し



ミミカキグサの群落・南部湿原(07/10/10)

「やまかど・森の楽舎」付属湿地では、オオニガナが最盛期になっています。昨年は 1 カ所で咲いたのみでしたが、今年は旧湿地にも広がっています。キク科だけにその繁殖力はさすがです。付属湿地では、キセルアザミ(やっぱりキク科)やサワギキョウの大繁殖でした。さらにジ